

コア・タイムス

[The Center for Overall Research on Education]

発行 加西市立総合教育センター

加西市北条町古坂1173-14 TEL 0790-42-3723 URL <http://kasai-core.net>

— 今月の紙面 —

- ①土曜チャレンジ「陸上教室」
- ②白黒勝負！
～加西市子ども会オセロ大会～
- ③加西市教職員の研修紹介
～教職員のさらなる資質の向上を
目指して～

土曜チャレンジ 「陸上教室」 ～みんなで走りを楽しもう～

土曜チャレンジ事業（通称土チャレ）について紹介します。土チャレは地域の多様な経験や技術をもつ人材・企業等の豊かな社会教育資源を活用して、土曜日ならではの体系的・継続的なプログラムを実施し、子どもたちにとって、より豊かで有意義な土曜日の教育活動を実現するために始まりました。平成26年より始まり、今年で5年目になります。各校区で様々な取り組みがされています。今回は、「陸上教室」を紹介します。



陸上教室では、世界に通用するような選手を育成するのではなく、次のような“ねらい”をもって運営されています。

- (1) 「走る」楽しさや速く「走る」ことのできる喜び、思いどおりに体を動かせる楽しさを感じ、「走る」ことが好きになる子どもを育てる。
- (2) 「走る」のが苦手な子どもの苦手意識を克服する。
- (3) 将来、陸上競技に本格的に取り組もうとする意欲を高める。

参加対象は市内在住の小学3年生以上で保護者が認めた者となっていますが、なんと小学2年生以下の児童や幼保園児も参加しています。

参加した児童の保護者からは、

「走る姿勢を美しくして、走ることに自信を持ってほしいです。」

「苦手意識が芽生えつつあるので、好きになるきっかけをつかんでくれたらいいなあと思います。」

「毎年参加しています。もっと回数を増やしてほしいと願っています。」

との声が聞かれました。

年を追うごとに参加人数が増えており、口コミで活動の良さが広がっているようです。「走る」ことを楽しみたい、興味がある、やってみようかなと思うお子さんに、ぜひおすすめ下さい。

白黒勝負！ ～加西市子ども会オセロ大会～

8月5日(日)、善防公民館において加西市子ども会オセロ大会が開催されました。大会は部門1(小学1年生～3年生)と部門2(小学4年生～中学生)に分かれて対戦が行われ、部門1は抽選で選ばれた32名、部門2は27名が参加しました。

勝負は15分間、相手の手を探りながら、自分の有利な状況に誘い込もうと、先を読んで慎重に進めていきます。相手もそれを阻止しようとじっくり考えて手を打ってきます。戦況はめまぐるしく変化しますが、参加した子どもたちは、何とか1つでも自分の色を多く残そうと、優勝を目指して熱い戦いが繰り広げられました。

対戦ですから、勝敗は必ずつきますが、勝った子も負けた子も正々堂々と戦い、勝負の後はお互い笑顔で、すがすがしい礼をしていました。学校も学年も違う相手と戦うのは相当緊張したに違いありませんが、この夏の思い出として残ることでしょう。

それぞれの部門で優勝した児童、生徒は、加西市の代表として12月に予定されている県大会に参加します。そこでも、勝ち進めるよう応援しています。



健闘を祈ります！

加西市教職員の研修紹介～教職員のさらなる資質の向上を目指して～

総合教育センターでは市内教職員向けに研修講座を企画、運営しています。各教科の理論や実技研修、部活動に関すること、教育経営に関すること、人権教育、子どもたちの学力を向上させるための研修など、内容は多岐にわたっています。特に子どもたちが夏休みの期間中は、様々な研修講座を計画し、教職員の資質の向上に努めています。

その中から2つの取組みを紹介します。

一つ目は、「学力向上授業実践講座」です。これは子どもたちの学力向上をねらいとし、まずは先生の力量を高めるために実施しています。この講座は岡山県にある環太平洋大学で行います。環太平洋大学には教員養成の学部があり、日々養成に取り組んでおられます。また、現場の先生を対象に実践的な授業力を高める研修講座を計画しています。さらに、あらゆる教科、方面から指導できる講師陣やそのための施設が充実しています。この大学に対し、県レ



ベルでの受け入れ要請はあるものの、私たち加西市が単独で受け入れていただけるのは大変珍しく貴重な取組と言えます。今年度は小学校教員対象にこれから大きく変わってくる道徳や外国語（英語）、幼保園教員・保育士対象に造形・絵画、体育実技を指導していただきました。受講した26名の先生方は、講師先生の熱い講義に領いたり、指導方法に聞き入ったりして、有意義な時間を過ごすことができました。「すぐに使える実践的な指導が多く、夏休み明けに子どもたちに還元したい」という意欲的な感想をたくさん聞くことができました。

二つ目は、岡山県瀬戸内市邑久町にある国立ハンセン病療養所、長島愛生園での「人権教育研修講座」です。この講座は、市役所人権推進課と共同で開催しています。

学芸員から長島愛生園の歴史やハンセン病患者に対する偏見や差別について、お話を聞きました。

さらに、入所者で明石生まれの男性（82歳）のお話を聞きました。差別に負けず前向きに生きておられますが、その言葉には、10歳で発症し、愛生園へ収容されて以来、人としての扱いを受けなかった理不尽さへの無念が滲んでいました。

「みなさんには我々の人生を通して、ここで何があったのか、人として何が大切なのかを次の世代に語り継いでほしい。」私たちに熱く語られたこの言葉は、とても重く感じられました。



人は、一人ひとり違って多様なはずなのに、多様な中から特定のものを異質なものと決めつけて偏見をもち、差別心を抱くという醜さや弱さをもっています。偏見が生んだハンセン病隔離政策の誤りを認識し、偏見や差別の恐ろしさを、そして偏見や差別を見抜き許さない人権感覚を磨くことの大切さを、私たちは次の世代を担う子どもたちに伝えていくことが大きな責務であると感じました。